私たちの福音

2014 年 3 月 16 日
西九州伝道所　佐々木正明

小さな物語

　集落の住民たちは、水がなくて困っていた。いや、近くには澄んだ沢の流れがあって、その豊かな水は枯れたこともないのだが、惜しいことに、塩辛くてとても飲めたものではなかった。昔、井戸を掘ってみた者もいたそうだが、湧き出た水はみな塩辛かった。村人たちは雨水を貯めるか、しばらく坂道を登った丘の上にある、隣の集落から買い求めなければならなかった。

　ところがあるとき、何がどうなったのか、突然、沢の水から塩気が抜けて、とびきり美味しい水になった。村人たちは、「奇跡だ」「神様がわしらを助けてくだすった」と、それはそれは喜んだ。噂を聞いた周辺の集落からも、そんな不思議な水を自分で味わってみようと、わざわざ訪ねてくる者もあれば、器に入れて持ち帰る者まで現れた。いままで、「呪いの水」と囁かれていたのが、「祝福の水」に変わった。彼らの集落は、新しい水の流れるところと呼ばれるようになった。その奇跡を見た喜びを、村人たちは忘れないようにと石碑を立て、いきさつを刻んで記念とした。

　それから長い年月が流れ、部族間の戦が幾度もくり返され、村はすっかり荒れすたれて住む人もいなくなり、見渡す限り草木に覆われてしまった。あの記念の碑も倒れ、草葉の陰にうずもれてしまった。そんなある日、旅人たちの一行がその場所を訪れた。彼らが住んでいた土地は住民が増えすぎて、すべてを養うのが難しくなり、新しい土地を求めてやってきたのだ。

　一行は豊かに流れる美しい水に歓喜した。もう、今までいた村のように、水の心配はしなくてもいい。土地も広くたくさんの人が住める。争いも起こらない。この嬉しい発見は、すぐさま彼らが出てきた村に伝えられ、多くの者がその土地に移住した。こうしてたくさんの人口を抱えるようになった村は、美しい沢の村と呼ばれて栄え続けた。

Ⅰ.　新約の時代

新約聖書が記され、イエス・キリストの福音が新しい契約の福音として認識され、それまでの律法に拘束された古い契約を破棄して、喜びに満たされたのが使徒の時代、新約の時代でした。それはあたかも、塩気の強い沢の水から、塩気がなくなったときの喜びのようです。使うことができなかった古いものが変えられて、使うことができる新しいものになった喜びです。

だれもが、古いものについてよく知っていました。その見た目の美しさの裏切り、役に立たなかった事実は、みんなが体験していました。だから、なぜそれが役に立たなかったのか、新しい契約はいかにして役立つものとして登場することができたのか、古い契約と新しい契約の関わりはどういうものなのかなどということに、強い関心を持っていました。人は律法によっては、義とされないこと。人には完全に律法を守る力がないこと。それなのに律法を守ろうと必死になり、守っていると勘違いする者たちも現れ、偽善者となって生きていたことなどが、新約聖書によって明らかにされました。

律法が役に立たなかったのではなく、律法が間違って用いられたために、正しく機能しなかったのだということも、きちんと教えられました。律法は新しい契約へ導く筋道であり、信仰による救いへの養育係だったのです。（ガラテヤ３：２４）そしてその律法によって期待させられるべきであった、救い主が現れ、律法とは別に、信仰による救いの道を開いてくださいました。それは、十字架による代償の死によってもたらされる、罪の赦しであり、救い主の甦りを経てもたらされる、義の転嫁であり、白い衣を着せられて、しみもとがもない花嫁となることができる、永遠のいのちの福音でした。

罪の中に生きていて、偽りの望みしか持つことができなかったイスラエルの人々には、これらが大きな福音でした。塩辛い水の古い沢が、甘くおいしい水の新しい沢になったのです。

Ⅱ．　旧約を知らない人々

私たち日本人は、ユダヤ人ではありません。古い塩の沢のことは知らないのです。かつてそのような沢があったという事実を、長々と聞かされても、関心を持てないのです。それよりも、そこに、美しくおいしい水が流れる沢がある、いつでもその水を飲むことができるという、いまの事実の方がよほど大切なのです。まず、その美しい流れからおいしい水を飲み、生活を営む中で、かつての歴史を学んだら良いのです。

私たち日本人がまず福音として聞かされるべきことは、美しくおいしい水が流れる沢が

あるという、いまの事実です。かつてそれは塩水の沢であったのに、奇跡的においしい水に変えられたという歴史は、後になって学べば良いことです。

２１世紀も昔に生きていた歴史上の人物が、何をしたか、何をどう変えたか、当時の状況にあってどのように生き、どのように戦い、どのように死んだかなどという事実は、どれほど重要であっても、いまさまざまな問題の中に生きている現在の日本人には、どうでもいいことなのです。それよりも、「いま助けてくださる方、いまこの問題を解決してくださる方」の方が、よほど大切なのです。

聖書の中でキリストはどのように描かれているか、旧約聖書との関わりの中でどのように教えられているかも、どうでもいいのです。どんなに素晴らしい教えをし、どれほど大きなことを成し遂げたかも、いま、問題の中にいて悩んでいる人にとってはどうでもいいのです。キリストの救いの道がどのように開かれたか、そのためにキリストがどれほど苦しまなければならなかったかなども、いまは、そんなことはどうでもいいという、「そんなこと」に含まれるのです。いま重要なのは、助けてもらえるかどうかです。いま助けがあるというのが福音。「助けてくださる方が、ここにいるぞー！」というのが、福音伝達であり伝道なのです。

私たちは歴史上のキリストを、一所懸命に語っているのではないでしょうか。旧約聖書との関わりに関心を持って深く学び、その知識を真剣に語り伝えているのではないでしょうか。十字架のイエス、甦りのイエスを、力いっぱい語ろうとしているのではないでしょうか。それはとてもとても大切な事実であり、私たちの信仰の土台です。でも、それが福音でしょうか。キリストが、人類の罪のために十字架で命を落としてくださったという事実は、いま２１世紀の問題の中に生きている日本人にとって、果たして福音として聴くことができるものでしょうか。

私たちが福音として宣べ伝えるのは、十字架に架かって死んでくださった、過去のキリストの物語ではありません。甦って天にお帰りになった、昔のキリストの話でもありません。いま私たちと共にいて下さるキリスト、いま私たちを助け、癒し、力を与え、困難に打ち勝たせ、望みを与えて下さるキリストです。いま私たちと共にいて下さるキリストは、かつて、私たちの罪のために十字架で死に、三日目に甦ってくださった方ですが、いま肝心なのは、このキリストが、私たちを助けようと、私たちが頼って行くことを待っておられるという事実です。いま、そのように私たちを助けることが出来るのは、かつて十字架で死に、甦ってくださったからですが、そのようなことは後で知れば良いことです。

私たちは旧約聖書を知らない国民です。律法を持たない異邦人です。かつて流れていた

沢は、塩辛い水であったということを知らない新しい住人です。いま、そこに流れている美しくおいしい水の沢を、まず喜んで、たっぷり飲んで渇きを癒したらいいのです。私たちの信仰は、過去の事実の上に立脚しています。しかし、過去の事実が福音なのではなく、いまの事実が福音であるはずです。いまの事実は、救い主、助け主、慰め主が私たちの近くにいて、私たちに手を差し伸べていて下さるということです。過去のことを記した石碑を見つけ出し、それについて学び、いきさつについて知ることも良いことです。でも、大切なのあは、いま流れているおいしい水を飲むことです。

Ⅲ．　ペンテコステ信仰のメッセージ

ペンテコステ運動で語られた福音には、当然、歴史上のキリストとその教えが含まれていました。キリストが何をしたかということも語られました。ところがそれで終わりではありませんでした。しばしば、いま、キリストが何をしてくださるかという点に、焦点が当てられていたのです。ガリラヤで足萎えを癒されたキリストは、いまここにいる足萎えを癒して下さるというのが、ペンテコステ信仰のメッセージでした。エルサレムで、目の見えない人の目を見えるようにしてくださったキリストは、いま、ここにいる目の見えない人の目も、見えるようにしてくださるというのが、ペンテコステ信仰の祈りの期待でした。イエス・キリストは、昨日も今日もとこしえまでも変わることがないというのが、ペンテコステ信仰の旗印だったのです。「いま共にいて下さるイエス様に、お願いしましょう」というお勧めが、証であり、伝道であり、メッセージであり、それに応答する信仰を期待したのです。

ペンテコステのメッセージは、聖書に記された歴史のできごとに基盤を置きながら、今生きておられるキリストを語り伝えたのです。これはしばしば体験主義、現象主義、ご利益主義というレッテルを貼られ、伝統的福音派の人たちの非難を浴びてきました。たしかにそのような非難には、真摯に耳を傾けるべきところがたくさんあり、反省し、改めなければならないことも数多くありました。それで、ペンテコステ信仰を持つ者が、少しばかり萎縮してしまったところもありました。とはいえ、そのような「主義」が、ペンテコステ運動の躍進の原動力でもあったのです。

私たちは何を福音としているのでしょう？　キリストの十字架でしょうか？　復活でしょうか？　それとも聖書の教えでしょうか？　キリストを信じるならば救われる。なんの行いも必要としないということでしょうか？

それらはみな福音の基盤であり、大切です。本物のクリスチャン信仰には、どれも欠かせないものです。しかし本当の福音は、私たちの救いのために、独り子をさえ惜しまずに

この世に遣わして十字架に架けるまで、私たちを愛し救いの道を整えてくださった神が、いま、私たちを救おうとしておられることなのです。いま私たちの祈りを聞き、助けの手を差し伸べようとしておられることなのです。

かつて私たちの罪を担って十字架で死んでくださったキリストが、いまも変わらない愛を持って、私たちを救いに入れようとしてくださっているという、その事実が福音なのです。私たちの癒しのために十字架で傷つき、永遠のみ国において完全な癒しをもたらして下さるキリストが、いまもこの世において働いておられるという、その事実が福音なのです。それだけでなく、キリストは、永遠のみ国で与えてくださる完全な癒しの前味を、いまのこの世で、あらかじめ味あわせ、永遠のいのちの望みを与えてくださるという、その事実が福音なのです。

くり返しますが、私たちは何を福音として語っているでしょうか。聖書の記述でしょうか？ 神とキリストに関する過去の事実でしょうか？ それとも、いま、神は私たちを救い助けてくださるという、現在の事実でしょうか？

私たちは、塩辛い水の沢のことを知らない人たち相手に、福音を語ろうとしています。いま喉が乾いて死にそうな人に、塩辛い水がどうして甘いおいしい水になったのかという、過去の事実を最初に語っても意味がないのです。それよりも、いまそこにあるおいしい水を、喜んでたくさん飲むことを勧めてあげるのです。勧めて上げるだけでなく、水を汲み上げて差し出し、飲めるようにしてあげるのです。

私たちは、いま問題の中に生きている日本人、悩みの中に痛み苦しんでいる日本人に向かって、２０００年前のキリストがどうしたの、何を教えたのなどとお話するのではなく、その人の痛みと悲しみを感じながら、いま、助けてくださるお方にお祈りしてあげるのです。私たちの雄弁や知識、心理学やカウンセリングの能力で日本人を助けてあげるのではなく、本当に助け救う能力をもっておられる方に、一緒にお祈りしてあげるのです。

すでに筆者は、普通の日本人に最初から「キリスト」という名を持ち出しては、理解と受け入れる心を妨げるといくどもお話ししてきました。ですから、すでに教会の活動に参加しているような人はさておいて、のっけからキリストがどうのこうのと言い出すのは、避けたほうが良いでしょう。それよりも、日本人が昔から心の奥深くで感じてきた気高く、大きく、優しく、有り難く、尊く、厳かな方、聖書でいう天地の造り主に、一緒にお祈りしてあげればいいのです。

簡単な結論

ではこの福音を、まったく聖書的な背景がない異邦人である日本人に、どのように説明したらいいのでしょう。大体、次のようにお話するのが良いのではないかと思います。

「私たちが信頼しているお方は、日本人が、昔から心の奥で感じてきた、優しく強く、心広く、情けに富む、気高く、尊いお方です。美しい四季を巡らせ、森や原を緑で覆い、作物を育て穀物を稔らせ、陸や空や海に住むすべての生き物に命を与え、私たちをも生かしておられる大きなお方です。日本人はこのお方のお名前も知りません。知らないままに、大切に崇めてきまし。実は私たちも、このお方について正確には知りません。計り難く大きなお方だからです。ただ、聖書という書物を通してこのお方について教えられ、天と地をお造りになったお方と呼んで崇めています。私たちはこの方のめぐみの中に命を与えられ、生かされ守られてきました。

このお方が、あなたを助けようとしておられます。それだけではなく、あらゆる禍からあなたを救い、もっともっと豊かに恵み、永遠の命までも与えようとしておられます。そのような祝福を得るためには、実は大変難しい手続きと、とても高額な費用が必要だったのですが、あなたを助け救い出そうとしておられるお方が、すでにあらゆる手続きを済ませ、すべての費用を払ってくださっています。

ですから、あなたは何もする必要がありません。ただ、このお方に「有難うございます」とお礼を言い、このお方をないがしろにして生きてきたことをお詫びし、このお方に信頼する生活を始めるだけでいいのです。そして、このお方の寛大さとめぐみに対する具体的なお礼として、このお方がお喜びになる生き方をするように、心がけましょう。

このお方がお喜びになる生き方は、自分中心をやめ、人を愛し人のためになるように生きることです。その上、天と地をお造りになって人間を生かし、さらに永遠の命まで与えてくださるこのお方に感謝し、崇め、尊んで生活することです」と教えて上げることができれば、九割方成功です。あとひと押しは、「このお方がお喜びになる、自分中心を捨てて人を愛する生活をするためには、人間の力だけではとても無理です。でも、このお方に祈り、助けをお願いすれば、このお方が喜ばれる生き方も無理なく、自然にできるようにしていただけるのです」と、祈りの生活を勧め、神の助けを体験できるように勧め、励ましてあげることができれば、長い伝道過程の第一段階としては大成功です。

あとは、神様がその人の心に働きかけて下さるように、祈るだけです。